

榎尾のサルとちえくらべ  
まきお

むかしむかし、善正ぜんしょうから滝畑たきはたまでの山道やまみちに、人ひとまねをするサルがおりました。サルは人ひとをからかうのが大好きで、山越えやまごをしようとする者ものがいると、かならず、そのあとをつけてきました。

人ひとが三歩さんぽすすめば、サルも三歩さんぽすすみ、人ひとがとまれれば、サルもとまります。



大勢おおぜいで山越やまこえするときはいいのですが、ひとりひとりで山越やまこえをするときは、みんな困こまっていました。

あるとき、ひとりの男おとこが山道やまみちを歩あるいていると、いつものようにサルがあとをつけてきました。男おとこはサルを追おい払はらおうと、足元あしもとにあつた小石こいしを拾ひろい、サルにむかつて投げなげました。

するとサルはおどろいて男おとこからはなれましたが、すぐにまねをして、足元あしもとの石いしを拾ひろい、男おとこに投げなげつけてきました。

男おとこはあわてて石いしをよけ、走はしってサルから逃にげだしました。

しかし、おもしろがったサルは男を追いかけているが、足元の石を拾い、つぎつぎに投げつけてきました。

なんとか、人里までおりてきた男は頭をかかえました。

帰りの道を通って帰らなければなりません。

またサルがあらわれて、男のあとをつけてくるかもしれせん。

男は一晩考えて、里を出る前にいくつかの小石を懐や袂にいれて、歩きました。

気になる続きは



TRC和泉図書館 TRCシティプラザ図書館  
TRC北部リージョンセンター図書室にて

絶賛販売中！

定価500円（税込）